

全体総括

○計画期間；平成23年3月～平成28年3月（5年0月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本市では、基本計画の認定以降、「生活、歴史、文化、観光のゲートタウンづくり」を基本理念として、社会資本整備総合交付金の利活用による事業の加速化を図り、中心市街地活性化協議会をはじめ市民と連携しながら、目標の達成に向けた積極的な取り組みを行ってきた。

その成果として、平成27年4月に小倉町集客拠点施設が供用を開始したことで、連日多くの観光客や買い物客が訪れており、さらに、全国的にも珍しい中心市街地内の道の駅「日光」として認定されたことにより、自動車での立寄り客も増加したことから、施設全体の利用者数は、当初想定した年間約49万人を大きく上回る年間約86万人の利用者が訪れ、街なかの賑わいを創出することができた。

また、商店街エリアを中心として、交流人口は近年増加傾向に推移し、この新たな拠点施設によって、地域産業などに新たな雇用を創出することができており、大きな経済効果（平成27年度）も生み出している。

ソフト事業については、本事業前から開催している「六斎市」、「全日本しもつかれコンテスト」を継続しているほか、「焼きそばまつり」や「散策ルートマップ作成事業」による「中心市街地散策ツアー」の開催や「JR通りイルミネーション事業」などの市民が主体となる活動が活発化している。

中心市街地内の市民アンケートでも、本事業実施前より観光客が増えたと感じている市民が7割以上、観光地としての魅力や賑わいが「向上している」と感じている市民がほぼ半数を占めるなど、相当数の市民が中心市街地の活性化を感じている。しかし、暮らしやすさについては、約3割の市民が「暮らしやすくなった」と感じているなど一定の成果も見られる一方、「変わらない」・「暮らしにくくなった」とする回答が多数を占める状況である。

これは、中心市街地の玄関口の一つである東武下今市駅から、栃木県が事業主体である「都市計画道路3・4・20平町東町線（主要地方道今市氏家線）及び都市計画道路3・4・25下今市駅前線（一般県道下今市停車場線）の道路拡幅整備」（以下、「街路事業」という。）ならびに、日光市が実施主体である「都市計画道路3・4・20平町東町線（主要地方道今市氏家線）及び都市計画道路3・4・25下今市駅前線（一般県道下今市停車場線）沿道整備街路事業」（以下、「沿街事業」という。）が、事業を継続中であり、現在では中心市街地の核となる「小倉町集客拠点施設」と玄関口「東武下今市駅」が完全に連結できておらず、中心市街地内の周遊環境が一部、形成されていない状況にあることが要因と考えられる。

そのため、さらなる中心市街地の活性化に向けて、街路事業による街なかの回遊ルートの連続性確保と、沿街事業による新たな商店街形成の実現に全力で取り組んでいるところである。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由（2.における選択肢の理由）

基本計画に位置付けた全 60 事業のうち、35 事業が完了、25 事業が継続中（未着手 0 事業）であり、概ね順調に進捗・完了したといえる。

一方で、数値目標である歩行者通行量及び小売年間販売額は、いずれも目標値に及ばない結果となっているが、小倉町集客拠点施設の供用に伴い、近年は順調に推移している。なお、詳細は下記のとおりである。

目標 1「歴史・自然資源等を活かしたまちづくりによる交流人口増」を達成するための「歩行者通行量」については、平成 25 年から増加傾向に転じ、平成 27 年は半数の地点で前年より増加するなど順調に推移している。さらに、小倉町集客拠点施設における利用者数は、想定 の 1.8 倍となるなど、商店街エリアでの交流人口が大きく増加している。

また、目標 2「誰もが安心して暮らすための生活サービス・生活環境の享受と商業の活性化」を達成するための「小売年間販売額」については、小倉町集客拠点施設の供用に伴い、目標値に近い数値まで回復が見られているほか、本施設の売上のみならず、地域産業による商品の生産、加工、販売に伴う新たな雇用を創出するなど、大きな経済効果(平成 27 年度)を生み出し、中心市街地の活性化が着実に表面化してきている。

さらに、本施設を利用したイベントなどの市民が主体となる活動が活発化しているほか、中心市街地内の市民アンケートでも、中心市街地が活性化していると感じている相当数の市民を確認できたことなどは、基本計画に基づき、5 年間官民が連携して活性化に取り組んできた成果が現れてきている。

「歩行者通行量」が数値目標には及ばなかった要因として、街なかの回遊性を高めるための軸となる東武下今市駅から国道 119 号までの街路事業及び沿街事業が、現在では完了していないため、街なかの回遊ルートの連続性が一部確保されておらず、小倉町集客拠点施設から離れた地点への効果が及んでいないことが考えられる。

また、「年間小売販売額」については、小倉町集客拠点施設及び隣接する商店街エリアでは順調に推移しているものの、他の商店街では後継者不足等の理由により、市街地全体の小売店舗数が減少したことが主な要因として挙げられる。

以上、全体を俯瞰すると、数値目標は目標値に及ばなかったものの、小倉町集客拠点施設が供用を開始したことで、中心市街地の交流人口が大きく増加し、街の賑わいを取戻しつつあることに加え、地域産業による経済効果が表れ始めた。さらに、市民が主体となったソフト事業などの積極的な取組によるイベント拠点施設及び新たな日光市の観光名所として定着したことなど、数値目標として掲げていない部分で着実に活性化が図られており、中心市街地の市民意識などから、全体的にはかなりの活性化が図られたと評価する。

4. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

<調査概要>

- (1) 調査対象者：中心市街地活性化基本計画エリアに徒歩や自転車で来訪する市民として、中心市街地活性化基本計画エリア及び隣接自治会の住民約 1,300 名（必要サンプル数 365 枚、回答率 30%を想定）を対象に実施した。なお、自治会ごとの対象者数は自治会ごとの人口比率により按分した。
- (2) 調査方法： 郵送配付、郵送回収方式
- (3) 調査時期： 平成 27 年 10 月～11 月
- (4) 回収状況： 489 枚（回収率 37.6%）

<①アンケート回答者属性>

【年代別回答者割合】

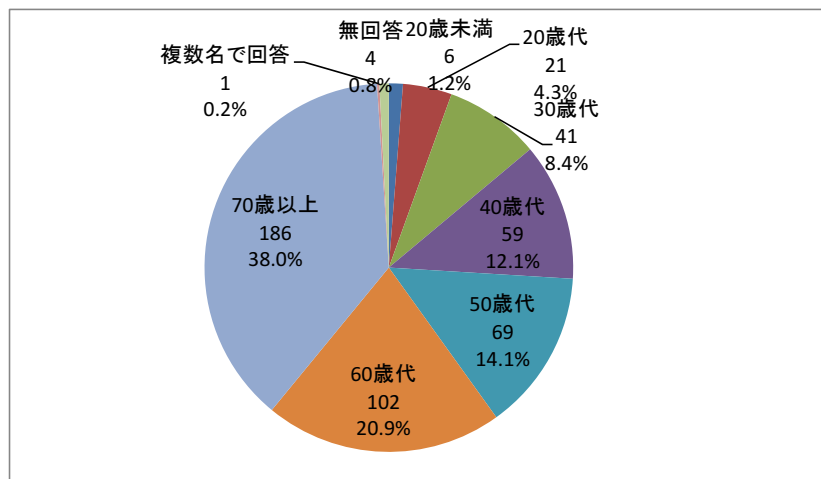


図 年代別回答者割合

年齢層の高い順で回答が多くなっており、70歳以上が最も多く 38.0%、次いで 60歳代の 20.9%、50歳代、40歳代、30歳代と続いている。

【性別回答者割合】

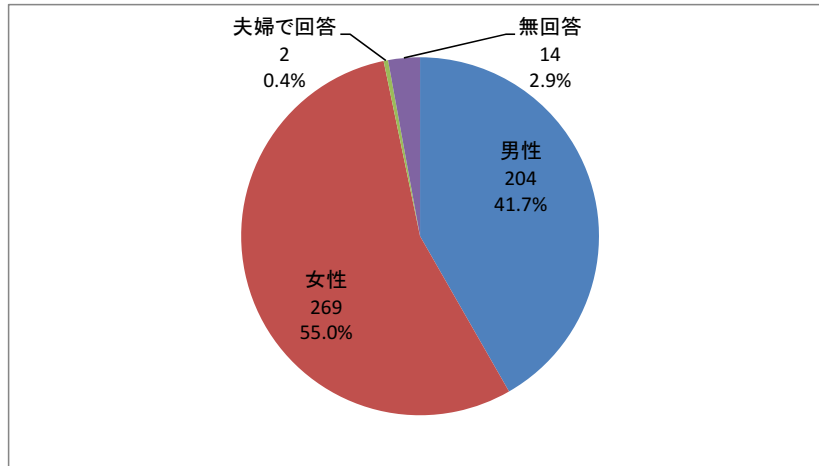


図 性別回答割合

アンケート回答者の55.0%が女性であり、41.7%が男性となっている。

<②中心市街地の観光地としての魅力について>

(1) 中心市街地内における観光客数

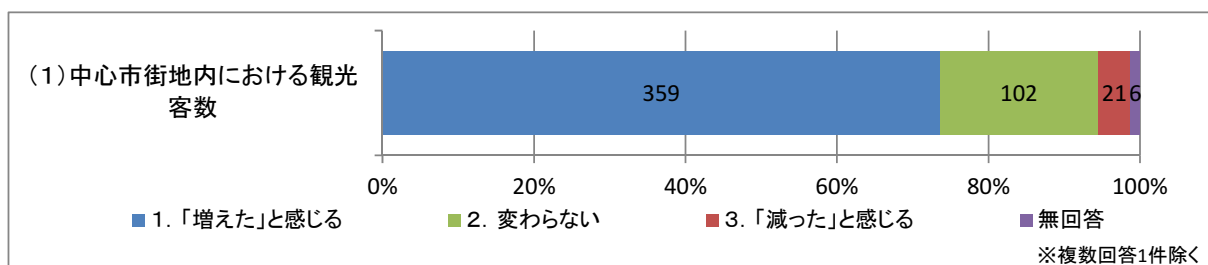


図 中心市街地内における観光客数について

事業実施前よりも観光客が「増えた」との回答が最も多く(73.4%)、「変わらない」(20.9%)や「減ったと感じる」(4.3%)とする回答を大きく上回っており、中心市街地の観光客が増えたと実感していると言える。

(2) 中心市街地の観光地としての魅力について

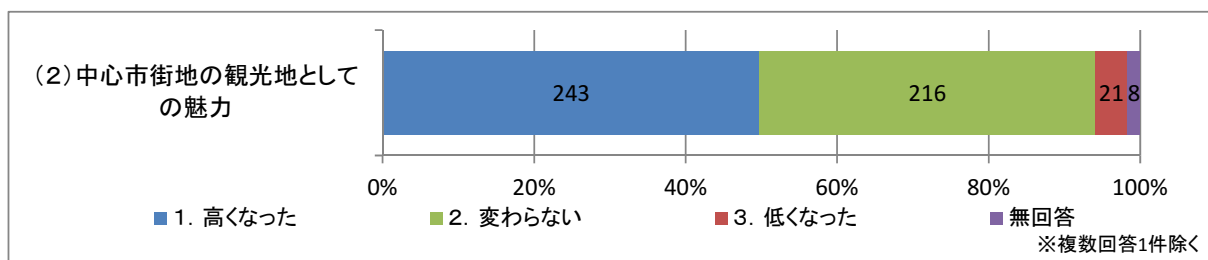


図 中心市街地の観光地としての魅力について

事業実施前よりも観光地としての魅力が「高くなった」との回答が約半数(49.7%)を占めており、「低くなった」(4.3%)とする回答を大きく上回るなど、中心市街地の観光地としての魅力向上に繋がっていると言える。

<③中心市街地の生活環境や商業活性化について>

(1) 中心市街地での生活(買い物など)のしやすさについて

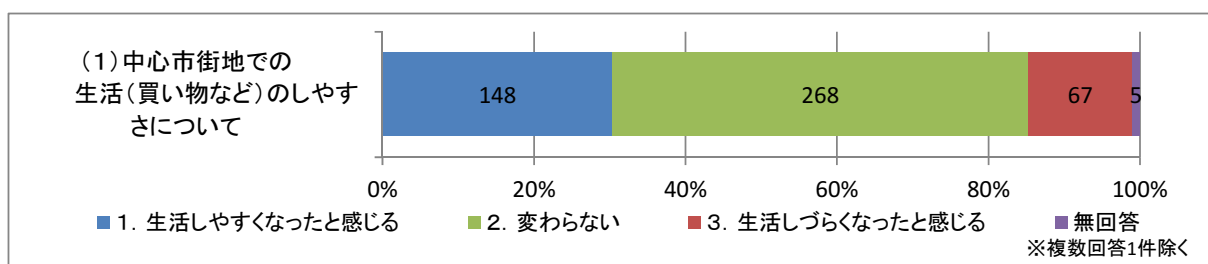


図 中心市街地の生活のしやすさについて

事業実施前よりも「生活しやすくなった」(30.3%)と感じる相当数の市民が確認でき、中心市街地の生活のしやすさについて一定の成果があったと言える。

一方、事業実施前と「変わらない」との回答が最も多くなっており(54.8%)、生活のしやすさの向上を感じられない市民も確認できる。

(2) 中心市街地の商店街のにぎやかさについて

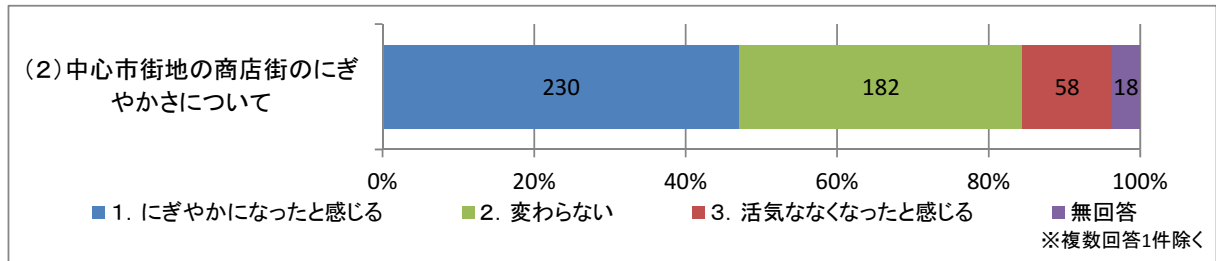


図 中心市街地の商店街のにぎやかさについて

事業実施前よりも「にぎやかになったと感じる」(47.0%)とする回答が約半数を占めており、相当数の市民が以前より商店街のにぎやかさを感じていることから、商店街の活性化について一定の成果があったと言える。

<④中心市街地の暮らしやすさについて>

(1) 中心市街地全体の暮らしやすさ

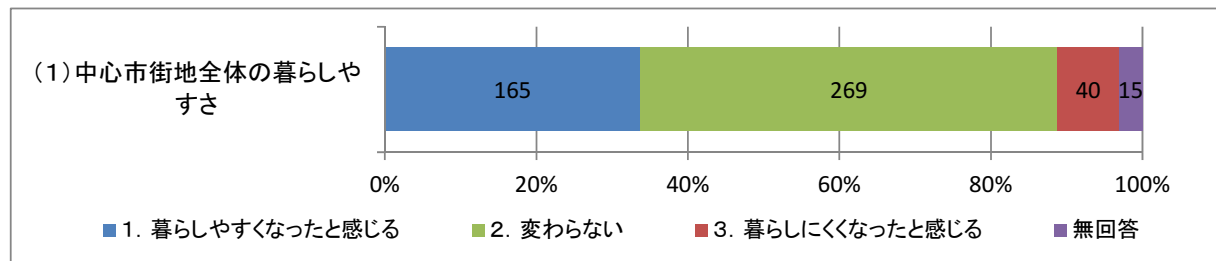


図 中心市街地全体の暮らしやすさについて

事業実施前よりも「暮らしやすくなったと感じる」(33.7%)とする回答が、「暮らしにくくなったと感じる」(8.2%)とする回答を上回っていることから、中心市街地周辺の暮らしやすさの向上について一定の成果があったと言える。一方、「変わらない」との回答が最も多くなっており(55.0%)、暮らしやすさの向上を感じられない市民も確認できる。

(2) あなたにとっての中心市街地の暮らしやすさ

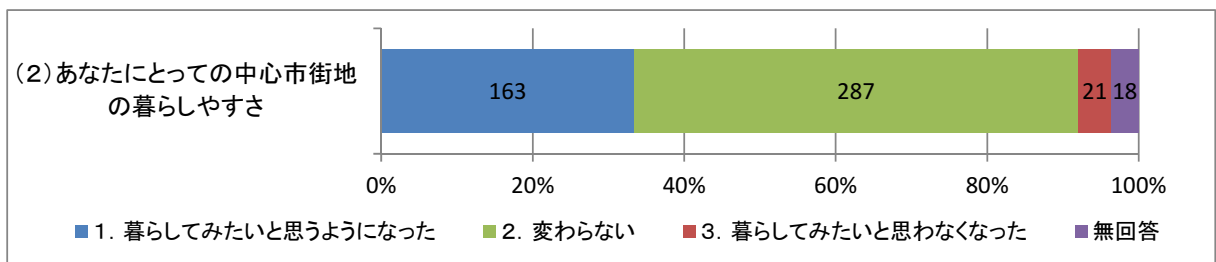


図 あなたにとっての中心市街地の暮らしやすさについて

事業実施前より「暮らししてみたいと思うようになった」(33.3%)とする回答が、「暮らししてみたいと思わなくなった」(4.3%)とする回答を上回っており、中心市街地周辺の暮らしやすさの向上について一定の成果があったと言える。一方、「変わらない」との回答が最も多くなっており(58.7%)、中心市街地内の暮らしやすさの変化を感じていない市民も確認できる。

<⑤自由意見回答状況>

表 自由意見回答状況

アンケート回答者数	自由意見	
	回答あり	回答なし
489	300	189

アンケート回答者の61.3%から自由意見の回答があり、中心市街地に対する高い関心が伺える。

5. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

①かなり活性化が図られた

②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

平成23年3月に「生活、歴史、文化、観光のゲートタウンづくり」をコンセプトとした基本計画が認定され、「文化・交流の促進」、「商業活動の促進」、「定住の促進」の基本方針をもとに60の事業が計画された。協議会としても、基本方針ごとに定期的に日光市や関係機関と会議を開催するなど、官民が密接に連携して事業実施にあたっての内容を協議し、概ね順調に事業を実施することができたと考える。

特に、基本計画の核である「小倉町集客拠点施設整備事業」は、中心市街地の集客拠点として、公共施設や商業施設が一体となった複合施設として整備を進める中で、全国でも珍しい中心市街地内での道の駅として認定を受け、平成27年4月のオープン以来、想定より多くの利用者が訪れている。現時点では街路事業及び沿街事業が継続して実施中であり、交流人口増の目標値は及ばなかったものの、歩行者通行量は2年前から増加に転じ、小倉町集客拠点施設の売上増なども一定の効果があつたものと評価している。さらに今後、これらの事業が完了することにより、歩きやすい歩行空間が形成され、各種イベント等の効果的なソフト事業を官民が連携して取り組んでいくことにより、小倉町集客拠点施設を起点とした街なかの回遊性向上や、商店街全体への更なる波及効果も期待できる。

また、市民アンケートでも、中心市街地内の魅力や賑わいが向上していると回答した市民の割合が高くなっている結果も出ており、全体的にはかなり活性化が図られたと評価する。

一方で、これまでの投資を有効活用し、交流人口の増加や商業環境の促進を軸とした施策を継続する必要があることから、協議会として今後も行政と連携を図り、中心市街地活性化のための効果的かつ継続的な事業を展開していく。

6. 今後の取組

小倉町集客拠点施設「道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣」を中心に街なかの賑わい回復が図られてきており、数値目標には及ばなかったものの、実施した事業の成果が着実に現れてきているものと考えられる。

今後は、街なかの賑わい回復が中心市街地全体に波及するよう、街路事業及び沿街事業をはじめとする継続中の事業を早期に完了させるほか、小倉町集客拠点施設を中心としたイベント等の各種ソフト事業を継続的に開催し、更なる街なかの賑わいの創出を図る。

また、中心市街地への公共施設等の集約化や空き家等を有効活用する制度の利活用による居住人口の増加を図る方策や、商店街を受け継ぐ次世代を育成する商業振興策等、実効性の高い事業等を検討し、官民連携の下で着実に実施する。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
歴史・自然資源等を活かした街づくりによる交流人口増	歩行者通行量 (平日・休日の平均)	5,317人 (H22)	5,590人 (H27)	4,332人	H27.7	C
誰もが安心して暮らすための生活サービス・生活環境の享受と商業活性化	小売年間販売額	2,896 百万円/年 (H21)	3,310 百万円/年 (H27)	1,749 百万円/年 ※1	H26.12	C

※1「小売年間販売額」の平成27年実績値については、各商店会への前年（平成26年1月～12月）の売上額調査結果を採用しているため、小倉町集客拠点施設（道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣）の公共施設、商業施設等の実績値が含まれていない。

なお、小倉町集客拠点施設（道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣）の平成27年4月～12月（実質8ヵ月）の売上は約600百万円であり、年間（平成27年4月～平成28年3月）では約760百万円の売上増が確実に見込まれるほか、施設全体の入込数も年間では86万人を超え、歩行者通行量、小売年間販売額ともに平成27年は増加傾向にある。

注）達成状況欄（注：小文字のa、b、cは下線を引いて下さい）

A（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。）

a（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。）

B（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。）

b（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。）

C（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。）

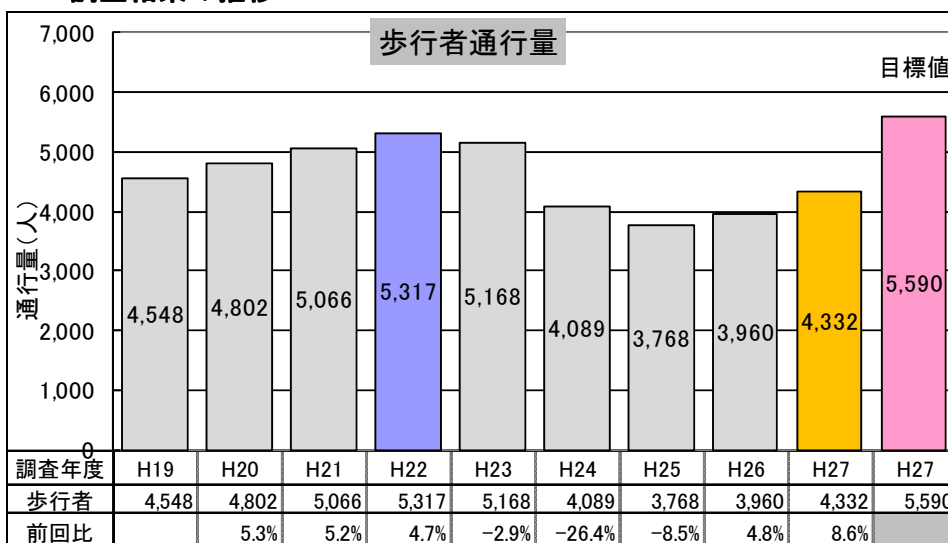
c（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。）

個別目標

目標「歴史・自然資源等を活かした街づくりによる交流人口増」

「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P. 52～P. 56 参照

1. 調査結果の推移



年	歩行者通行量 (人/日)
H22	5,317 (基準年値)
H23	5,168
H24	4,089
H25	3,768
H26	3,960
H27	4,332
H27	5,590 (目標値)

※調査方法：通行量調査（9時～19時の10時間計測：平日と休日 2日間の平均値）

※調査月：毎年7月の平日・休日 各1日

※調査主体：日光市

※調査対象：中心市街地16地点における歩行者通行量

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 小倉町周辺整備・商業施設整備事業（(株)オアシス今市）

支援措置名及び支援期間	特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣認定：H26年度商店街まちづくり事業（中心市街地活性化事業）H26年度										
事業開始・完了時期	平成23年度～平成26年度【済】										
事業概要	中心市街地の交流・観光・商業活性化の拠点となる、公共施設や商業施設が一体となった新たな複合施設「道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣」として整備を実施。その中で商業施設は、売上高増加による波及効果が地元事業者のみならず広く誘導できるよう、食品関連、食文化など「日光ブランド」を中心に幅広く提供している。事業区域1,373㎡										
目標値・最新値	<table border="0"> <tr> <td>目標値(事業箇所近傍はH22現況値)</td> <td>最新値</td> </tr> <tr> <td>歩行者通行量</td> <td>5,590人/日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※基本計画P.54</td> </tr> <tr> <td>(事業箇所近傍:小倉町交差点) (371人/日)</td> <td>(409人/日)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※国道119号北側と南側の歩道合計値</td> </tr> </table>	目標値(事業箇所近傍はH22現況値)	最新値	歩行者通行量	5,590人/日		※基本計画P.54	(事業箇所近傍:小倉町交差点) (371人/日)	(409人/日)		※国道119号北側と南側の歩道合計値
目標値(事業箇所近傍はH22現況値)	最新値										
歩行者通行量	5,590人/日										
	※基本計画P.54										
(事業箇所近傍:小倉町交差点) (371人/日)	(409人/日)										
	※国道119号北側と南側の歩道合計値										
達成状況	事業箇所近傍での歩行者通行量が増加し、目標を達成できた。										
達成した（出来なかった）理由	<ul style="list-style-type: none"> 全国的にも珍しい中心市街地内の道の駅として認定されたことにより、イベント開催時以外にも自動車での立寄り客が増加したため。 多目的広場等での多くのイベントが開催され、誘客を図ることができたため。 										
計画終了後の状況（事業効果）	<ul style="list-style-type: none"> 波及効果が地元にも広く誘導できる商業施設のみの入込数においても、年間約36万人の目標値を上回る、年間約42万人(平成27年度)を記録しており、街なかの商店街エリアの賑わいを創出した。 										
小倉町周辺整備・商業施設整備事業の今後について	<ul style="list-style-type: none"> 実施済み 										

②. 小倉町周辺整備・船村徹記念館整備事業（日光市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（日光市中心市街地地区））H24年度～H26年度	
事業開始・完了時期	平成23年度～平成26年度【済】	
事業概要	<p>中心市街地の交流・観光・商業活性化の拠点となる、公共施設や商業施設が一体となった新たな複合施設「道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣」として整備を実施。その中で船村徹記念館は、日本の音楽文化を通じた交流活性化を目指し、日光市にゆかりのある作曲家船村徹氏の業績や名曲の数々を紹介する記念館として整備。</p> <p>事業区域 783 m²（日本のこころのうたミュージアムと一体的に整備）</p>	
目標値・最新値	<p>目標値（事業箇所近傍はH22現況値）</p> <p>歩行者通行量 5,590人/日</p> <p>※基本計画P.54</p> <p>（事業箇所近傍：小倉町交差点）（371人/日）</p> <p>※国道119号北側と南側の歩道合計値</p>	<p>最新値</p> <p>4,332人/日</p> <p>（409人/日）</p>
達成状況	事業箇所近傍での歩行者通行量が増加し、目標を達成できた。	
達成した（出来なかった）理由	<ul style="list-style-type: none"> 全国的にも珍しい中心市街地内の道の駅として認定されたことにより、イベント開催時以外にも自動車での立寄り客が増加したため。 多目的広場等での多くのイベントが開催され、誘客を図ることができたため。 	
計画終了後の状況（事業効果）	<ul style="list-style-type: none"> 記念館の入込数は、目標値年間55,800人の見込みを大きく上回る、95,356人（平成27年度）と、目標値の約1.7倍の入込みを記録しており、街なかの商店街エリアの賑わいを創出した。 	
小倉町周辺整備・船村徹記念館整備事業の今後について	<ul style="list-style-type: none"> 実施済み 	

③. 小倉町周辺整備・日本のこころのうたミュージアム整備事業（日光市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（日光市中心市街地地区））H24年度～H26年度	
事業開始・完了時期	平成23年度～平成26年度【済】	
事業概要	<p>中心市街地の交流・観光・商業活性化の拠点となる、公共施設や商業施設が一体となった新たな複合施設「道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣」として整備を実施。その中で日本のこころのうたミュージアムは、新たなコミュニティの創出を目指して、日本人の心に残る歌を全国に発信する場として整備。</p> <p>事業区域 783 m²（船村徹記念館と一体的に整備）</p>	
目標値・最新値	<p>目標値（事業箇所近傍はH22現況値）</p> <p>歩行者通行量 5,590人/日</p> <p>※基本計画P.54</p> <p>（事業箇所近傍：小倉町交差点）（371人/日）</p> <p>※国道119号北側と南側の歩道合計値</p>	<p>最新値</p> <p>4,332人/日</p> <p>（409人/日）</p>
達成状況	事業箇所近傍での歩行者通行量が増加し、目標を達成できた。	
達成した（出来なかった）理由	<ul style="list-style-type: none"> 全国的にも珍しい中心市街地内の道の駅として認定されたことにより、イベント開催時以外にも自動車での立寄り客が増加したため。 多目的広場等での多くのイベントが開催され、誘客を図ることができたため。 	

計画終了後の状況（事業効果）	・ ミュージアムの入込数は、目標値年間 55,800 人の見込みを大きく上回る、95,356 人(平成 27 年度)と、目標値の約 1.7 倍の入込みを記録しており、街なかの商店街エリアの賑わいを創出した。
小倉町周辺整備・日本のこころのうたミュージアムの今後について	・ 実施済み

④. 小倉町周辺整備・多目的広場整備事業（日光市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業(日光市中心市街地地区)) H24 年度～H26 年度												
事業開始・完了時期	平成 23 年度～平成 26 年度【済】												
事業概要	中心市街地の交流・観光・商業活性化の拠点となる、公共施設や商業施設が一体となった新たな複合施設「道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣」として整備を実施。その中で多目的広場は、街なかに新たな集客を図ることで賑わいを創出するため、定期的なイベント等を開催する施設として整備。事業区域 1,382 m ²												
目標値・最新値	<table border="1"> <tr> <td>目標値(事業箇所近傍は H22 現況値)</td> <td>最新値</td> </tr> <tr> <td>歩行者通行量</td> <td>4,332 人/日</td> </tr> <tr> <td>5,590 人/日</td> <td>(409 人/日)</td> </tr> <tr> <td>※基本計画 P. 54</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(事業箇所近傍:小倉町交差点) (371 人/日)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※国道 119 号北側と南側の歩道合計値</td> <td></td> </tr> </table>	目標値(事業箇所近傍は H22 現況値)	最新値	歩行者通行量	4,332 人/日	5,590 人/日	(409 人/日)	※基本計画 P. 54		(事業箇所近傍:小倉町交差点) (371 人/日)		※国道 119 号北側と南側の歩道合計値	
目標値(事業箇所近傍は H22 現況値)	最新値												
歩行者通行量	4,332 人/日												
5,590 人/日	(409 人/日)												
※基本計画 P. 54													
(事業箇所近傍:小倉町交差点) (371 人/日)													
※国道 119 号北側と南側の歩道合計値													
達成状況	事業箇所近傍での歩行者通行量が増加し、目標を達成できた。												
達成した（出来なかった）理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国的にも珍しい中心市街地内の道の駅として認定されたことにより、イベント開催時以外にも自動車での立寄り客が増加したため。 ・ 特に観光シーズンには多くのイベントを開催し、誘客を図ることができたため。 												
計画終了後の状況（事業効果）	・ 「道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣」オープン後、定期的にイベントを開催したが、特に 7 月以降は大規模なイベント等が多数開催され、多目的広場のみで年間約 5.2 万人が利用(平成 27 年度)するなど、街なかの商店街エリアの賑わいを創出した。												
小倉町周辺整備・多目的広場整備事業の今後について	・ 実施済み												

⑤. 小倉町周辺整備・多目的ホール整備事業（日光市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業(日光市中心市街地地区)) H24 年度～H26 年度												
事業開始・完了時期	平成 23 年度～平成 26 年度【済】												
事業概要	中心市街地の交流・観光・商業活性化の拠点となる、公共施設や商業施設が一体となった新たな複合施設「道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣」として整備を実施。その中で多目的ホールは、街なかに新たな集客を図ることで賑わいを創出するため、幅広い文化の発信基地として多目的に利用できるホールを整備。事業区域約 3,939 m ²												
目標値・最新値	<table border="1"> <tr> <td>目標値(事業箇所近傍は H22 現況値)</td> <td>最新値</td> </tr> <tr> <td>歩行者通行量</td> <td>4,332 人/日</td> </tr> <tr> <td>5,590 人/日</td> <td>(409 人/日)</td> </tr> <tr> <td>※基本計画 P. 54</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(事業箇所近傍:小倉町交差点) (371 人/日)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※国道 119 号北側と南側の歩道合計値</td> <td></td> </tr> </table>	目標値(事業箇所近傍は H22 現況値)	最新値	歩行者通行量	4,332 人/日	5,590 人/日	(409 人/日)	※基本計画 P. 54		(事業箇所近傍:小倉町交差点) (371 人/日)		※国道 119 号北側と南側の歩道合計値	
目標値(事業箇所近傍は H22 現況値)	最新値												
歩行者通行量	4,332 人/日												
5,590 人/日	(409 人/日)												
※基本計画 P. 54													
(事業箇所近傍:小倉町交差点) (371 人/日)													
※国道 119 号北側と南側の歩道合計値													

達成状況	事業箇所近傍での歩行者通行量が増加し、目標を達成できた。
達成した（出来なかった）理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国的にも珍しい中心市街地内の道の駅として認定されたことにより、イベント開催時以外にも自動車での立寄り客が増加したため。 ・ 特に観光シーズンには多くのイベントを開催し、誘客を図ることができたため。
計画終了後の状況（事業効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣」オープン後、定期的にイベントを開催したが、特に7月以降は大規模なイベント等が多数開催され、多目的ホールのみで年間約2万人が利用（平成27年度）するなど、想定約1.3万人を大きく上回り、街なかの商店街エリアの賑わいを創出した。
小倉町周辺整備・多目的ホール整備事業の今後について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施済み

⑥. 日光美術展事業（日光市）

支援措置名及び支援期間	単独事業（H27～																
事業開始・完了時期	平成27年度～【実施中】																
事業概要	中心市街地にある芸術関連の情報発信ツールとして、市内各地域の児童が中心市街地にある彫刻作品にふれあうツアーを実施するとともに図録風マップを作成する事業。																
目標値・最新値	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>目標値</td> <td>最新値</td> </tr> <tr> <td>歩行者通行量</td> <td>5,590人/日</td> <td>4,332人/日</td> </tr> <tr> <td>(日光美術展事業 ・市民ギャラリー展示施設合計)</td> <td>(210人/日)</td> <td>(112人/日)</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">※平成27年度参加者・利用者実績値</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">※基本計画P.55</td> </tr> </table>		目標値	最新値	歩行者通行量	5,590人/日	4,332人/日	(日光美術展事業 ・市民ギャラリー展示施設合計)	(210人/日)	(112人/日)		※平成27年度参加者・利用者実績値			※基本計画P.55		
	目標値	最新値															
歩行者通行量	5,590人/日	4,332人/日															
(日光美術展事業 ・市民ギャラリー展示施設合計)	(210人/日)	(112人/日)															
	※平成27年度参加者・利用者実績値																
	※基本計画P.55																
達成状況	目標を達成できなかった。																
達成した（出来なかった）理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地内の彫刻作品のみに限定して鑑賞しようとする学校が減少していることが想定される。 																
計画終了後の状況（事業効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日光美術展事業の参加人数は合計42名と少なく、また彫刻作品がJR今市駅と杉並木公園（中心市街地活性化基本計画エリア西側）に固まっているため、一時的かつ局所的な効果しか得られていない。 																
日光美術展事業の今後について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地内に点在する彫刻作品以外の芸術作品も含めて回遊ルートを設定するなど、ツアーの魅力向上を図り、参加人数増に努めながら事業を継続する。 																

⑦. 市民ギャラリー展示施設の整備（日光市）

支援措置名及び支援期間	単独事業（H27～																
事業開始・完了時期	平成27年度～【実施中】																
事業概要	日光市で実施されたフォトコンテストの入賞作品について、商業施設に併設された常設ギャラリーを設置し、より多くの市民にみてもらうよう、保管・管理できる施設として整備。																
目標値・最新値	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>目標値</td> <td>最新値</td> </tr> <tr> <td>歩行者通行量</td> <td>5,590人/日</td> <td>4,332人/日</td> </tr> <tr> <td>(日光美術展事業 ・市民ギャラリー展示施設合計)</td> <td>(210人/日)</td> <td>(112人/日)</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">※平成27年度参加者・利用者実績値</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">※基本計画P.55</td> </tr> </table>		目標値	最新値	歩行者通行量	5,590人/日	4,332人/日	(日光美術展事業 ・市民ギャラリー展示施設合計)	(210人/日)	(112人/日)		※平成27年度参加者・利用者実績値			※基本計画P.55		
	目標値	最新値															
歩行者通行量	5,590人/日	4,332人/日															
(日光美術展事業 ・市民ギャラリー展示施設合計)	(210人/日)	(112人/日)															
	※平成27年度参加者・利用者実績値																
	※基本計画P.55																

達成状況	目標を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	・ 市民ギャラリー展示施設については、入賞作品を観覧する利用者がフォトコンテストを実施した日光市内の市民に限られている可能性があるため。
計画終了後の状況（事業効果）	・ 本施設の利用者数は当初見込みの約6割にとどまり、中心市街地の交流人口増への寄与度は限定的である。
市民ギャラリー展示施設の整備の今後について	・ 市外からの利用者が気軽に立ち寄れる工夫を行うほか、市民へのPRを強化し、今後も事業を継続する。

⑧. 中心市街地散策ツアー（歩きたくなるまちづくり委員会）

支援措置名及び支援期間	単独事業（H26～									
事業開始・完了時期	平成26年度～【実施中】									
事業概要	中心市街地の回遊性向上を目指し、観光や歴史ボランティアなどと協力し、中心市街地の観光・歴史スポットを散策するツアーを企画し実施する事業。									
目標値・最新値	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>最新値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩行者通行量 (中心市街地散策ツアー分)</td> <td>5,590人/日 (30人/日)</td> <td>4,332人/日 (41人/日)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※基本計画 P. 56</td> <td>※平成27年度参加者実績値</td> </tr> </tbody> </table>		目標値	最新値	歩行者通行量 (中心市街地散策ツアー分)	5,590人/日 (30人/日)	4,332人/日 (41人/日)		※基本計画 P. 56	※平成27年度参加者実績値
	目標値	最新値								
歩行者通行量 (中心市街地散策ツアー分)	5,590人/日 (30人/日)	4,332人/日 (41人/日)								
	※基本計画 P. 56	※平成27年度参加者実績値								
達成状況	目標を達成した									
達成した（出来なかった）理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散策ルートマップ「今市×ピカイチ101マップ」の作成時から、若手市民を中心とした委員会が積極的に企画を提案し、魅力的なツアーを開催することができたため。 									
計画終了後の状況（事業効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地の魅力を再確認してもらうため、散策ルートマップ「今市×ピカイチ101マップ」を活用した中心市街地散策ツアーを平成26年度から実施している。 ・ 「今市ぶらり～の飲みすぎたるはおよパール」では、中心市街地外や市外からも多数の利用者が参加（参加者数668人：平成27年）し、一時的ながらも街なかの賑わいを創出するとともに、中心市街地の交流人口増に寄与している。 ・ 「日光街道ニコニコ本陣オープン記念ハイキング」は19日間に及ぶ企画で総勢506人が鉄道を活用して誘客が図られ、市街地内の多くの観光スポットを回遊することから、市街地内を一定期間、広範囲に波及効果をもたらすことができた。 ・ 「今市七福神めぐり」は1日だけの企画であるが平成27年は167人が参加し、8kmの裏通り含む市街地内のコースを散策するなど、一時的ではあるが、中心市街地全体の交流人口増に寄与した。 ・ 「日光杉並木街道散策ツアー」は19件、332名の参加者があり、案内を行う市民（シルバー人材センター）と観光客との交流促進が図られた。 									
中心市街地散策ツアーの今後について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散策ルートマップを活用し、今後も事業を継続する。 ・ 散策ツアーの開催頻度を増やすなど、一時的な効果ではなく、日常的な波及効果を目指す。 									

3. 今後について

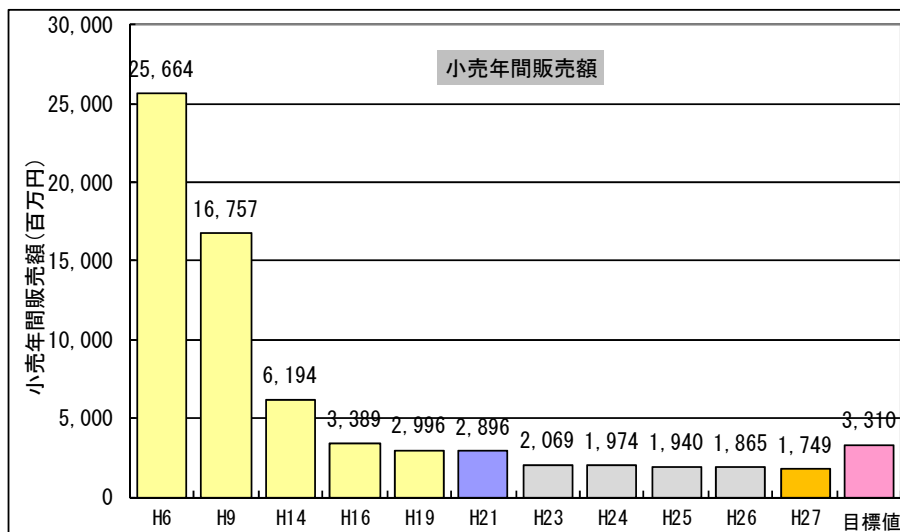
- ・ 「歩行者通行量」の平成 27 年実績値については数値目標を達成できなかったものの、平成 27 年 4 月に小倉町集客拠点施設「道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣」が供用を開始したことで、連日多くの観光客や買い物客が訪れており、特にイベント開催時には本施設に多く利用者が訪れ、街なかの賑わいを創出している。さらに、全国的にも珍しい中心市街地内の道の駅として認定されたことにより、イベント開催時以外にも自動車での立寄り客が増加し、利用者数は想定を大きく上回り、商店街エリアでの交流人口が増加している。
- ・ 商店街エリアから中心市街地全体に賑わいを波及させるため、栃木県が事業主体である「都市計画道路 3・4・20 平町東町線（主要地方道今市氏家線）及び都市計画道路 3・4・25 下今市駅前線（一般県道下今市停車場線）の道路拡幅整備」の事業推進を図るとともに、事業連携による日光市が実施主体の沿道整備街路事業の早期完了を目指す。
- ・ 小倉町集客拠点施設（道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣）を中心とした地域交流・市民活動を活性化させるためのイベント等の各種ソフト事業を継続的に開催し、更なる街なかの賑わいの創出を図る。
- ・ 居住人口の減少により日常的な中心市街地の賑わいが低下していることから、中心市街地への公共施設等の集約化や空き家等を有効活用する制度の利活用による居住人口の増加を図る方を検討し実施する。

個別目標

目標「誰もが安心して暮らすための生活サービス・生活環境の享受と商業活性化」

「小売年間販売額」※目標設定の考え方基本計画 P. 57～P. 61 参照

1. 調査結果の推移



年	小売年間販売額 (百万円/年)
H21	2,896 (基準年値)
H23	2,069
H24	1,974
H25	1,940
H26	1,865
H27	1,749
H27	3,310 (目標値)

※調査方法：アンケート調査
 ※調査月：平成 27 年 11 月
 ※調査主体：日光市
 ※調査対象：中心市街地内商店街事業者

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 小倉町周辺整備・商業施設整備事業（(株)オアシス今市）【再掲】

支援措置名及び支援期間	特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣認定：H26 年度商店街まちづくり事業（中心市街地活性化事業）H26 年度	
事業開始・完了時期	平成 23 年度～平成 26 年度【済】	
事業概要	中心市街地の交流・観光・商業活性化の拠点となる、公共施設や商業施設が一体となった新たな複合施設「道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣」として整備を実施。その中で商業施設は、売上高増加による波及効果が地元事業者のみならず広く誘導できるよう、食品関連、食文化など「日光ブランド」を中心に幅広く提供している。事業区域 1,373 m ²	
目標値・最新値	目標値 年間小売販売額 3,310 百万円/年 (商業施設:飲食店含む) (623 百万円/年) ※基本計画 P. 59 では物品販売 (469 百万円/年) に限定しているが、実績値では飲食店を含んでいるため、目標値についても基本計画 P. 54 の飲食店分の目標値 (154 百万円/年) を上乗せした。	最新値 1,749 百万円/年 (524 百万円/年) ※商業施設 (物品販売+飲食店) の実績値 ※コンビニエンスストアは商業施設の小売販売額増分には含まない。
達成状況	平成 27 年度売上額は、4 月下旬にオープンして 3 月末までの約 11 ヶ月で年間目標値の約 84% に達し、初年度としては概ね目標を達成できた。	
達成した（出来なかった）理由	<ul style="list-style-type: none"> 全国的にも珍しい中心市街地内の道の駅として認定されたことにより、イベント開催時以外にも自動車での立寄り客が増加したため。 多目的広場等での多くのイベントが開催され、誘客を図ることができたため。 	
計画終了後の状況（事業効果）	<ul style="list-style-type: none"> 多くの利用者が毎日のように訪れており、中心市街地の商業の活性化に貢献している。 	

小倉町周辺整備・商業施設整備事業の今後について	・ 実施済み
-------------------------	--------

②. 小倉町周辺整備・多目的広場整備事業（日光市）【再掲】

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（日光市中心市街地地区））H24年度～H26年度	
事業開始・完了時期	平成23年度～平成26年度【済】	
事業概要	<p>中心市街地の交流・観光・商業活性化の拠点となる、公共施設や商業施設が一体となった新たな複合施設「道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣」として整備を実施。その中で多目的広場は、街なかに新たな集客を図ることで賑わいを創出するため、定期的なイベント等を開催する施設として事業を実施。事業区域 1,382 m²</p>	
目標値・最新値	<p>目標値</p> <p>年間小売販売額 3,310 百万円/年 (イベントによる波及効果) (173 百万円/年) ※基本計画 P. 60</p>	<p>最新値</p> <p>1,749 百万円/年 (82 百万円/年) ※平成27年度利用者数実績値 ※基本計画と同等の方法で算定</p>
達成状況	目標を達成できなかった。	
達成した（出来なかった）理由	<p>・全国的にも珍しい中心市街地内の道の駅として認定されたことにより、イベント開催時以外にも自動車での立寄り客が増加したものの、多目的広場もしくは多目的ホールでのイベント開催日数について、基本計画時は341日を想定していたが、実際は155日であったため。</p>	
計画終了後の状況（事業効果）	<p>・「道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣」オープン後、定期的にイベントを開催したが、特に7月以降は大規模なイベント等が多数開催され、多目的広場のみで年間約5.2万人が利用（平成27年度）するなど、既存店への波及効果を創出しており、中心市街地の商業の活性化に一定の貢献をしている。</p>	
小倉町周辺整備・多目的広場整備事業の今後について	・ 実施済み	

③. 小倉町周辺整備・多目的ホール整備事業（日光市）【再掲】

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（日光市中心市街地地区））H24年度～H26年度	
事業開始・完了時期	平成23年度～平成26年度【済】	
事業概要	<p>中心市街地の交流・観光・商業活性化の拠点となる、公共施設や商業施設が一体となった新たな複合施設「道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣」として整備を実施。その中で多目的ホールは、街なかに新たな集客を図ることで賑わいを創出するため、幅広い文化の発信基地として多目的に利用できるホールを配置。事業区域約 3,939 m²</p>	
目標値・最新値	<p>目標値</p> <p>年間小売販売額 3,310 百万円/年 (イベントによる波及効果) (173 百万円/年) ※基本計画 P. 60</p>	<p>最新値</p> <p>1,749 百万円/年 (82 百万円/年) ※平成27年度利用者数実績値 ※基本計画と同等の方法で算定</p>
達成状況	目標を達成できなかった。	
達成した（出来なかった）理由	<p>・全国的にも珍しい中心市街地内の道の駅として認定されたことにより、イベント開催時以外にも自動車での立寄り客が増加したものの、</p>	

	多目的広場もしくは多目的ホールでのイベント開催日数について、基本計画時は341日を想定していたが、実際は155日であったため。
計画終了後の状況（事業効果）	<ul style="list-style-type: none"> 「道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣」オープン後、定期的にイベントを開催したが、特に7月以降は大規模なイベント等が多数開催され、多目的ホールのみで年間約2万人が利用（平成27年度）するなど、想定約1.3万人を大きく上回り、既存店への波及効果を創出し、中心市街地の商業の活性化に一定の貢献をしている。
小倉町周辺整備・多目的ホール整備事業の今後について	<ul style="list-style-type: none"> 実施済み

3. 今後について

- 「小売年間販売額」の平成27年実績値については、前年（平成26年）の売上額の調査結果を採用しているため、小倉町集客拠点施設（道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣）の公共施設、商業施設等の実績値が含まれていない。しかし、小倉町集客拠点施設（道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣）の平成27年4月末～12月（実質8か月）分の売上は約600百万円であり、年間（平成27年4月～平成28年3月）では約760百万円の売上増が確実に見込めることから、小売年間販売額は基準年値に近い値まで回復していると考えられる。
- 商店街エリアのみならず、中心市街地の活性化を全体に波及させるため、栃木県が事業主体である「都市計画道路3・4・20 平町東町線（主要地方道今市氏家線）及び都市計画道路3・4・25 下今市駅前線（一般県道下今市停車場線）の道路拡幅整備」の事業推進を図るとともに、事業連携による日光市が実施主体の沿道整備街路事業の早期完了を目指す。
- 小倉町集客拠点施設（道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣）を中心としたイベント等の各種ソフト事業を継続的に開催し、「散策ルートマップ」による既存店のPR活動や「中心市街地散策ツアー」などの開催により街なかの回遊性を向上させ、中心市街地全体の商業施設に波及効果を促す。
- 居住人口の減少に伴う日常的な買い物客の減少が小売販売額に影響を与えていることから、中心市街地への公共施設等の集約化や空き家等を有効活用する制度の利活用等、居住人口の増加を図る方策を検討し実施する。
- 後継者不足等により閉店を余儀なくされる店舗が多いことから、商店街を受け継ぐ次世代を育成する商業振興策等を官民連携の元で実施する。